

教会短信

2006年8月6日

No. 10

牧師 間瀬 善彦

8月は「平和」について考えさせられる月です。人はだれもが1人では生きていくことができない存在です。人とのつながりの中である時には人を助けたり、ある時は自分が人から助けられたりした経験があろうと思います。あえて人と争うようなことなどせず、人と助け合って生きていった方がどんなに素晴らしいことでしょう。しかしながら、実際はささいなことが原因で人と喧嘩になったり、憎しみ合うことになり、あげくの果てには暴力沙汰にも発展してしまいます。心の中では、人と仲良く助け合って生きていった方が良いことと知りつつも、感情の行き違いや人との利害の違いによって争いになってしまうことは本当に悲しいことです。

国と国との関係にも同じことが起こります。世界の人びとが助け合い、世界中から戦争や紛争がなくなることを、ほとんどの人びとが願っていることです。しかし、国と国の関係にも利害が発生します。これは国益というものです。政治家は自国の利益を重視しなければなりませんので、国益のためにはあえて武力を使うかどうかを判断しなければならないでしょう。地球上に人が存在する限り、戦争や紛争はなくなるのでしょうか。

宗教戦争という言葉があります。しかし、宗教が戦争を起こすのでしょうか。諸宗教の教えの中に、人と争うことをあえて勧めたり、殺人を命令する教えはありません。宗教が戦争を起こすのではなく、人の心から出る欲やねたみが戦争を起こすのです。聖書ではこれを罪といいます。人の心には、罪があります。この罪がある限り地上から戦争や紛争はなくなるでしょう。

聖書には、「実に、キリストはわたしたちの平和であります。2つのものを1つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、…十字架によって敵意を滅ばされました」(エフェソ 2:14.16)と書いてあります。イエス・キリストは人と人との敵意の壁を取り壊すために、十字架について死んでくださいました。それは人の心の中にある罪を償うためです。ひとりひとりが自分の心の中にある罪を自覚し、その罪のためにイエス・キリストが十字架についてくださったのだということを信じるならば、どんなにこの世界は変えられていくことでしょう。わたしたちも欲やねたみや争う心に支配されず、平和を作り出す者になりましょう。

あしあと

ある夜、わたしは夢を見た。
わたしは、主とともに、なぎさを歩いていた。
暗い夜空に、これまでのわたしの人生が映し出された。
どの光景にも、砂の上にふたりのあしあとが残されていた。
一つはわたしのあしあと、もう一つは主のあしあとであった。
これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、
わたしは、砂の上のあしあとに目を留めた。
そこには一つのあしあとしかなかった。
わたしの人生でいちばんつらく、悲しいときだった。
このことがいつもわたしの心を乱していたので、
わたしはその悩みについて主にお尋ねした。
「主よ。わたしがあなたに従うと決心したとき、
あなたは、すべての道において、わたしとともに歩み、
わたしと語り合ってくださいと約束されました。
それなのに、わたしの人生のいちばんつらい時、
ひとりのあしあとしかなかったのです。
いちばんあなたを必要としたときに、
あなたが、なぜ、わたしを捨てられたのか、
わたしには、わかりません。」
主は、ささやかれた。
「わたしの大切な子よ。
わたしは、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。
ましてや、苦しみや試みの時に。
あしあとがひとつだったとき、
わたしはあなたを背負って歩いていた。」

この詩を読み終えた後に、言い表せないほどの安らぎと感謝が溢れてきた。人生には、喜びの時、
悲しみの時があり、それは人それぞれ違う形となって現れてくる。しかし、どんな時であっても、人
は決して一人ではないのだ。特につらく悲しい時にこそ、神は私たちと共に歩むと言って下さってい
る。この詩の中で、つらい悲しみがいっぱい詰まって、さらに重くなった作者を、神ご自身が背負
って下さっている。きっと作者が立ち上がるまで。なんと愛であろう。そうやって神は、今も私
たちの気付かないところで一人一人に色んな形で愛を与え続けて下さっている。これまで私は、どれ
ほどの愛を受けてきたのだろう。きっと、数えきれないほどあるに違いない。

聖句 「あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。強く雄々しくあれ。」

ヨシユア記1章5-6節

N.H

【教会歳時記】

教会行事・ファミリー・キャンプのこと

経堂教会では、親睦活動として‘オリーブ会’と称する高齢者を主とする小旅行会と、秋にはファミリー・キャンプと呼ぶ教会員の、交わりと研修の一泊のキャンプを行っている。昨年は、10月箱根峠温泉・富士箱根ランドにて、研修と交わりのキャンプを行った。テーマは、「教会ってどんなところ?」。教会が持つ意味とは・・・?

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです」(ガラテヤ3-26)

「信仰は聞くことによる」(ローマ10-17)

「愛の実践を伴う信仰」(ガラテヤ5-6)

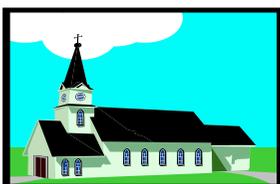
などの聖書の言葉より、教会は一緒に礼拝する仲間がいる所であり、信仰を共にする者が集まって、一緒に聖書を学び、説教を聞き、一緒に祈り、讃美と感謝を献げること、大きな意味がある。

自由時間の懇談は勿論あるが、聖書を学び、人の考えを聴き、交わりをもつことが如何に有意義であり、生き甲斐に直結したものであるかを、参加者ひとりひとりが噛みしめたキャンプであった。

相憎く、天候には恵まれなかったが、内的な心の充実は十分味わえたものであったと思う。

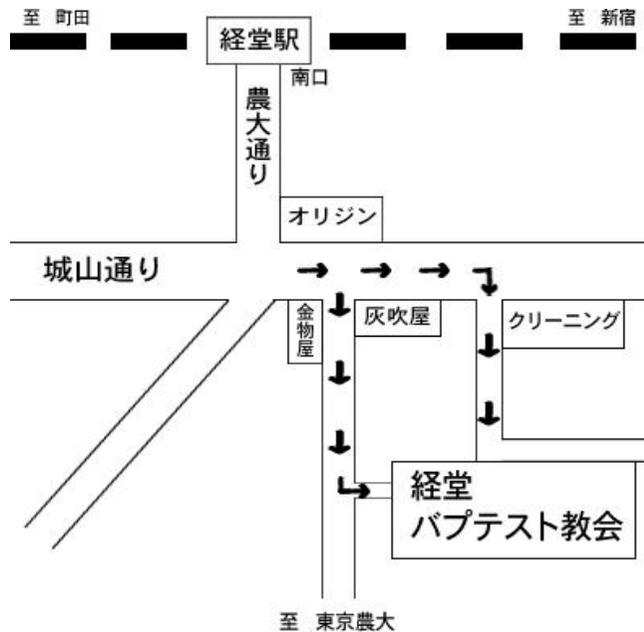
今年も、11月3～4日に、伊豆天城湯ヶ島町(今は、静岡県伊豆市湯ヶ島という)天城山荘にて、経堂バプテスト教会ファミリー・キャンプを行う予定である。

これからでも遅くはないと思う。神のみ恵みを頂く一員となって、このキャンプに参加し、心を清く、そして真の安らぎを求める生き方を学ぼうではありませんか。



集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
青年科・成人科		
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時 ～ 2時
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分
英語教室 (英文法)	火曜日	午後 7時30分～9時
(英会話)	金曜日	午後 7時 ～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3426-0071

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。